

屋内退避施設 大丈夫？

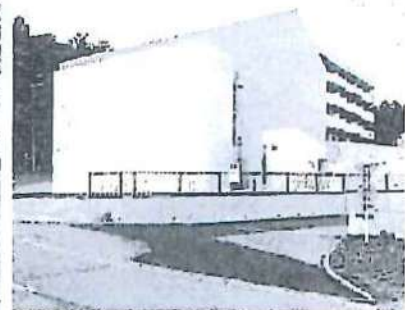
東日本大震災から16日で5千日となるのを前に、16日夜に発電を再開した東北電力女川原発（女川町・石巻市）2号機。周辺では事故に備え、放射性物質の流入を防ぐとされる「屋内退避施設」の整備が進む。ただ、能登半島地震では、同様の施設の損傷が相次いだ。専門家らは、避難先として機能しない恐れがあると指摘する。

女川町・石巻市 12カ所整備 気圧を調整 外気遮断



小取地区放射線防護対策施設の1階避難室。1人あたり4平方メートルのスペースを用意している。女川町提供

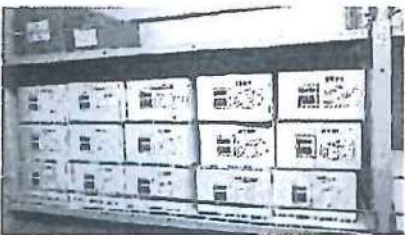
重たい二重扉を開けると、窓のない建物内に新築のにおいがたちこめていた。女川原発の北側の女川町小取地区に町が3月、新たに設けた鉄筋コンクリート造りの「小取地区放射線防護対策施設」だ。町の担当者の案内で、内部に入った。1階と2階には、住民が身を寄せる避難室が広がる。1人あたりのスペース（2層四方）で区画ごとに床が色分けしてあった。備蓄庫に計画当時の地区の住民38人が7日間、生活できる水と食料



小取地区放射線防護対策施設の外観＝女川町提供



おしか清心苑の気圧を高める装置＝石巻市助川坂



施設内の非常食。女川町提供

が入っており、電気ボルトで湯も沸かせる。2階には放射性物質が施設内に流入しないよう

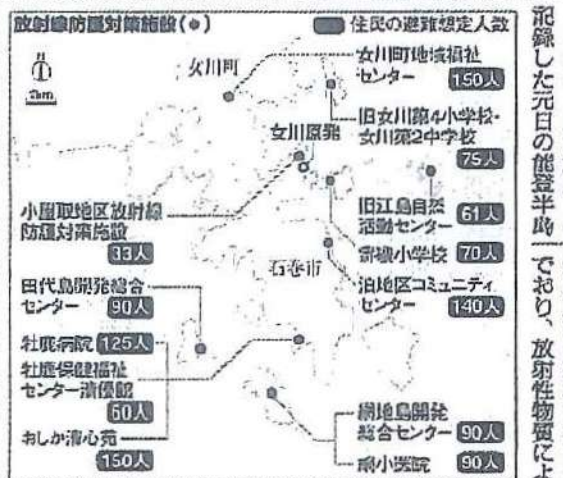
問う 女川再稼働

石川にも施設 能登地震被害 機能損なう不具合も

内閣府によると、同様の放射線防護対策施設は全国に約300ある。小取地区の施設のように新設したものは約10で、残りは既存の建物を改修し、内部の気圧を高められる装置を備えている。施設は全て新しい耐震基準を満たしているとい

専門家 機能せぬ恐れ指摘 屋内余震で倒壊懸念

自らも能登半島地震で被災し、屋内退避施設の課題を迫る「志留原 隆を断片に」訴訟原告団「の北野進団長(64)によると、施設の壁に少しの間隙ができて、気圧を高めても空気中の放射性物質の流入を防げない。ひとたび震度4クラス以上の地震が起きたら、倒壊や道路の通行止めは全国どこでも起こりうる」と指摘。「実際に屋内退避施設の損傷が相次いでおり、放射性物質によ



「地震の被害があった際には余震による家屋の倒壊の危険がある。施設が倒壊しないかどうかを緊急的に判定しないまま、屋内にとどまるのは生命の危険に直結する」と指摘。「事故のリスクがある以上、少しでもリスクを下げる努力を継続していかなくては」と話す。(藤原 心)

宮城

東北

デジタル版 ニュースはこちら

仙台総局(東北復興取材センター)
〒980-0014

仙台市青葉区本町2-2-4
TEL 022-223-3116
FAX 022-223-3119
sendai@asahi.com
石巻 0225-05-0347
釜山7班 0228-22-7060

購読・配達のご用は
0120-33-0843(7~21時)
広告のご用は
022-223-0131
折り返しのご用は
022-226-0763

きょうの天気

6~12時	降水確率	12~18時
10	仙	20
10	古	10
10	石	20
20	白	20

仙台	東京	石巻
14度	16度	14度
10度	12度	10度
10度	12度	10度
10度	12度	10度
10度	12度	10度